

平成29年度柳津町立西山中学校 学 校 経 営 方 針

校長 高橋 弘悦

1 はじめに

いよいよ最後の一年です。

私たちの仕事は出会いの連続です。そのたびごとに生徒がもてる力を引き出し、最大限に伸ばしてあげるのが仕事です。課題を抱えた生徒こそ、その生徒の良いところを見つけ、さらにわずかでもそれを伸ばすためにどうしたらよいかを語り合える教職員集団を創りましょう。どんなに太く立派な鎖でも一つの輪が壊れればそれは鎖として用をなしません。西山中学校の全職員が、教育現場で働くという高い道德意識の中で個性を認め合い、発揮し合ってよりよい活動をつくっていきましょう。それぞれの職員が生き生きと活動する中で、子どもたちは自分のモデルを見つけ成長していくことができます。この出会いを大切にし、選ぶことのできない出会いを選んだ以上の出会いにしていきたいと思います。

今年度は特に最後の一年であることを念頭に置いた活動が必要になります。閉校に向けた保護者や地域、卒業生等の様々な思いを大切に受け止め、生徒が活躍する姿でその思いに応えられるよう、日々の教育活動を進めて行きたいと思います。今年の西山の教育が、次につながる大きな礎となるよう、一緒に頑張りましょう！

2 教育目標

心豊かに自ら生き抜く、心身ともにたくましい生徒の育成

- 心身ともに健康で、たくましい生徒
- 正しく判断し、行動できる生徒
- 自ら学び、自ら考える生徒

3 学校経営方針

(1)「明日が楽しみではない」

学校は本来楽しいところで、「わくわく」「どきどき」を与えてくれるところで、「明日が楽しみではない」ところでなければなりません。

「わくわく」「どきどき」といえば、かつて近所の友だちと日が暮れるのも忘れて遊びほうけていたときのことを思い出します。あの頃どうしてあんなにもわくわくどきどきを感じていたのでしょうか。今のようなテレビゲームがなかった時代ですので、遊ぶことといえ



ば鬼ごっこであったり、かくれんぼ、メンコ、ドッジボール、ままごとやケンケンパー…。

そうした「遊び」の何がそんなに私たちを駆り立てるのでしょうか？整理してみると次のようになるかと思います。

- ①なりたい自分になれる。(ままごと、ごっこ遊び)
- ②成長が自覚できる。習熟の度合いが成果となって現れ、ステージがあがる。(缶蹴り、スキー、竹馬、自転車乗り、メンコ、ドッジボール)

「なりたい自分になる」「成長の自覚」…まさに学校そのものともいえるのではないかと思います。学校はややもすると「行きたいくないところ」「休みたいところ」の筆頭にあげられるところなのかもしれませんが、前述のようなかつて私たちを夢中にさせた「遊び」の要素をもっと取り入れることができれば、学校を「行くのが楽しみでしようがない」というところにすることができるのではないかと思います。

幸い西山中学校は大変小さな学校であり、大きな学校では難しいことでもその機動性のよさで何でも実現できます。可塑性に富み、他校ではリスクと思われることでもいろいろ試すことができる学校です。子どものために「よい」と思われることは、多少のリスクが予想されても「挑戦」してみたいと思っています。ただし、職員が同じ方向を向いて取り組むことが大切です。互いに責任ある行動と協力体制で、事故なく、先生方自身が楽しんで職務あたって欲しいと思います。

(2)めざす学校の姿

「信頼」：「行ってよかった、行かせてよかった」と実感できる学校

- ① 生徒が、生き生きと学習し、笑顔あふれる学校。
- ② 教師が、生徒の良さを引き出し、共に成長できる働きがいのある学校。
- ③ 保護者が、学校を信頼し、子どもの成長のために共に協力する学校。
- ④ 地域が、親しみをもて、明るく開かれた学校。

学校生活に、夢中になれるものを見いださせ、「明日が楽しみでしようがない」学校を目指し、生徒には「行ってよかった」「西山中でよかった」、保護者には「行かせてよかった」「西山中学校に満足！」と言ってもらえる学校を目指したいと思います。

学校の教育目標を達成するためには、学校への信頼が何よりも基盤です。子どもの命を守り、出会う人全てを幸せにするのが学校の使命です。

少人数「だけれども」、少人数「だからこそ」
一人ひとりが「確かな成長」を感じ取れるあこがれの学校
《キーワード》自己啓発力 成長の自覚

を目指しましょう。

① あこがれの学校とは

- ◎「地域の学校として信頼される
- ◎「学びたい」「学ばせたい」と誰もが思う。
(いわゆる「名門校」と同様の価値)
- ◎越境してでも入学したい…⇒小規模校の解消へ



そのために…

あ 安全・安心な学校
こ 心が育つ学校
が 学力がある学校
れ 連携して歩む学校

あ ○ 愛され、応援される生徒
こ ○ 向上心があり、何事にも挑戦する生徒
が ○ 学習方法を工夫し、自ら学ぶ生徒
れ ○ 礼儀正しく、健康でさわやかな生徒

「安全・安心」

◎学校経営の基本。どこよりも安心で、安全に生活できる学校環境の構築

「心が育つ」

◎どんな環境におかれても、常に前向きで向上心があり、何事にも挑戦する心の育成
◎礼儀正しく、思いやりがある「品性」の醸成（自分に厳しく、他人に優しい）
◎行動を見ると、一目で西山中生とわかる

「学力がある」

◎自ら学習方法を工夫し、学び続ける姿勢の構築（学ぶ力の強さ）
◎世界のトップ校に進学できる意欲と学力の獲得

「連携して歩む」

◎地域に学び、地域に貢献する意識
◎地域防災の担い手として

② 今年度の重点(テーマ)

あこがれの自分をめざして ～共に歩む 一人でも翔ぶ～
「学び」「感じ」「伝え」「刻む」

西山の最後の一年です。学校がここにあるのは生徒がいるからであり、親がいるからであり、地域があるからです。私たちは、その縁の中で仕事をさせてもらっています。閉校の機会にここにいることは大きな出会いです。多くの人たちが実に様々な思いを抱いて、閉校を迎えますが、特に大切にしたいのは、「寂しさ」に共感することです。その寂しさを乗り越えるものは、感謝であり、そのことを常に心に留めながら出来ることは今いる子どもたちへの確かな日々の教育実践です。

本校は地域に支えられ、地域と共に歩んできた学校です。統合を控えた今、これまでのそうした歴史と伝統をしっかりと刻み、そこで培った力をさらに広い世界で発揮できる素地を身に付けさせなければなりません。そのために、共に力を合わせて歩む力と、一人になっても決然と立ち向かう自信と勇気を培う必要があります。多くのことを「学び」、心で「感じ」、感動を「伝え」、新たな歴史を「刻む」一年を目指していきましょう。

「学び」：学校の骨です。プロの仕事を徹底してやりましょう。

「感じ」：心を震わす時間が人を大きくします。見知らぬ世界へのダイブです。

「伝え」：豊かな表現は人に感動を与えます。何か出来るか考えましょう。

「刻む」：記憶は人に未来を見せます。生徒に西山で、人生の土台を創らせましょう。

(3)めざす生徒の姿

「自信」：共に歩む 一人でも翔ぶ

本校は小規模校であるため、子どもたちはそれが意識するしないにかかわらず心の奥に小さなコンプレックスとなっており、大事な場面で時折顔を出すことがあります。生徒一人ひとり可能性が大変豊かだと思っています。その可能性を遺憾なく発揮させるために、生徒同士、生徒と教師、保護者、地域が手を携えて共に歩み、少人数であっても臆することなく決然と自己実現できる強さを持った生徒を育成していきたいと思っています。



生徒が自分に自信を持つには、自分が大切にされている実感できることが基盤です。そのためには、互いに相手を尊重する態度が大切だと考えます。

未来を切り拓く子ども達には、今よりも一歩前へ、今よりも一段高い「あこがれの自分」を意識させ、それに向けて力強く歩み続ける姿勢を身につけさせたいと思います。そのために、チャンスの場を創造し、試行錯誤をさせ、心も体も大きくするのが教師に与えられた役割です。「よりよく あこがれの状態をめざす」という思いが人を動かします。学校は、そこに多くの教職員の知恵が勇気が結集される場であると信じています。

- あ ○ 愛され、応援される生徒（気持ちの良いあいさつ、返事ができる）
- こ ○ 向上心があり、何事にも挑戦する生徒（目標に向かって、着実に挑む）
- が ○ 学習方法を工夫し、自ら学ぶ生徒
- れ ○ 礼儀正しく、健康でさわやかな生徒（相手の立場になって判断、行動できる）

(5)めざす教職員の姿

「信念」：あこがれの追求

生徒がよりよく生きるためには、指導する私たち教師がよりよく生きようと、前を向いていることが大切だと考えます。生徒に「あこがれを目指す」思いをはぐくむ場は、学校生活です。未来を生きたことがない私たちは、生徒のために、謙虚に、プロとして自分の仕事にメスを入れ、私たち自身が率先してよりよい授業、よりよい活動の創造に全力を挙げなければなりません。そうしたひたむきな姿に生徒は感動し、その先生の真摯な姿に多くを学びます。そこにこそ、西山の先生方の教師としての醍醐味を見出して欲しいと願っています。私たち教師自身も「あこがれの教師」を具体的にイメージし、その教師像に少しでも近づけるよう努力したいものです。

- ①子どもを愛し、子どもとともにある教師
- ②生徒のやる気を起こさせ、生徒の活動を大切にする教師
- ③研修に励み、情熱を持って協働する教師

平成29年度実現したいこと

アンダーアチーバーゼロ

1 確かな学力の育成のために

※ 持てる力を引き出すのが我々の役目です。少なくともバランスドアチーバーにはさせなくてはなりません。そのために

(1) 指導方法工夫改善等の充実

- ・ ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業で、生徒の特性や課題に応じたきめ細かな指導を行います。
- ・ 「教えて考えさせる授業」の実践により、よりわかりやすく、思考力を高める指導を行います。

(2) 学習支援の徹底

- ・ 加配により、授業におけるつまづきを防ぐ「学習支援教員」を配置します。
- ・ 授業内容の定着を図るため、学習コーナーを設置し、塾のない西山での学習活動の活性化を図ります。
- ・ S Bタイムの実施により、指導時間の充実に図り、定着、活用力の向上を図ります。

(3) 学習を支える諸条件の改善・充実の推進

- ・ 生徒の学習が充実したものとなるように、板書、ノート指導等におけるユニバーサルデザイン化を進めます。(ICT機器活用を含む)
- ・ 授業への参加意欲を高める規律のあり方等について徹底します。

2 特別支援教育の充実

(1) 「個別の支援計画」に基づいた全校的な支援を行う体制をつくります。

- ・ 校内支援委員会を機能させ、困り感のある生徒やその保護者に寄り添った支援を行います。
- ・ 保護者と目標を共有し、個別の指導計画、支援計画を作成し、全校で支援を行います。

3 検定取得

(1) 学年に依拠しない検定試験のよさを活かし、「一歩前の自分」への挑戦を促します。
このことにより、資格取得による自己実現を図らせます。

目標 3年生～3級 2年生～4級

(2) 英語検定を最優先します。

漢字検定、数学検定でも同様に目指させたいとは思いますが、まずは英語検定に注力したいと思います。ここで培った集中力や意欲、学習法、そして自信は、漢検、数検にも好影響を与えたいと思います。

「わくわく どきどき」実現のために

1 キャリア教育の充実

- ① 高等学校の特色を学ぶと共に、自分の進路を早い段階で見据えさせる取り組みをします。(※特別支援学級)
- ② 職場体験やアントレプレナーシップ育成教育などを通じて、学ぶことや働くことの意義を理解させ、望ましい勤労観・職業観を育てます。

2 地域に根差した環境教育の実践

- ① アントレプレナーシップ育成教育の活動を通して、自分の身近な環境における発見を大切にさせ、実践力を養います。

- ◇柳津全域を対象にした観光マップの制作
- ◇新たな産品の提案（企業とのコラボを…）
- ◇高枝夫人による講演会
- ◇健幸クラブとの交流

3 情報教育・国際理解教育

- （１）生徒が情報モラルを身につけ、コンピュータ等の適切な利用が出来るようにします。
- （２）A L T、大学や高等学校の人材、留学生等を活用し、異文化に慣れ親しむ機会を積極的に設け、豊かな国際社会の構築に役立つようにします。

- 奥会津オープンセミナーへの参加

 - （１）地域の抱える問題の認識
 - （２）世界の一流大学学生との交流

「勤めてよかった」実現のために

1 職員のキャリアアップ

- （１）試験の全員突破を目指します。
学活終了 ～１７：００ 陸上練習
１７：００～１８：００ バドミントン
- （２）生徒の学力向上を図るための授業づくりを基本とした校内研修を活性化し、その成果や課題を保護者や地域も含め共有します。
- （３）タブレットパソコンのエキスパートを目指します。

2 その他

- （１）西山最後の一年をしっかりと締めくくり、最後の職員として光り輝きます。
 - ・ 閉校記念実行委員会を立ち上げ、全職員が協力して、生徒の心に残る一年を創り上げるよう取り組みます。
- （２）統合に向けた準備を進めます。
 - ・ 統合協議会等での関係機関、地域、保護者、教職員等の声を生かし、統合準備会で調整しながら、生徒のために、責任をもって取り組みます。
 - ・ 西山・柳津の両校で、教育課程や評価に関して整合性を図りつつ、よりよいものを創り上げます。
 - ・ 統合校の目標を定め、分掌ごとの各グループを機能させます。

